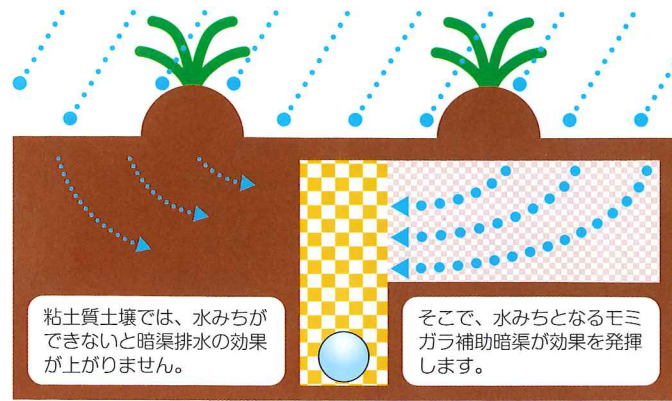


モミガラ補助暗渠を入れてみませんか？

◆モミガラ補助暗渠の効果は？

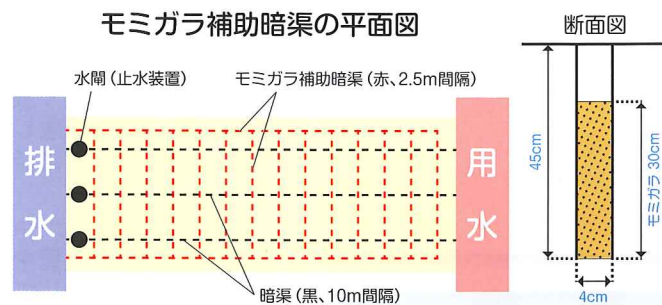


◆排水改良には、水みちの確保が肝心！



◆モミガラ補助暗渠とは？

暗渠排水（本暗渠）と直角方向に2.5m間隔で、幅4cm深さ45cmの溝を切ってモミガラを充填したものです。



◆モミガラ補助暗渠を入れるのに使える事業は？（戦略作物高品質・高収量実現排水対策支援事業）

モミガラ補助暗渠単独施工型

- 助成額（※上図の標準タイプ以外の場合、施工延長に応じ助成額が変わります。）
 - 業者等に作業を頼む場合、契約額の2/3（上限金額17,000円/10a）
 - 自分で作業する場合、13,000円/10a
- 事業要件
 - 次の年に戦略作物や地域特産物等の作付が確実であること。（ただし、主食用米、加工用米、新規需要米は対象外です。）
- 対象区域
 - 区画整理済で暗渠排水（本暗渠）が入っている区域

水田排水総合強化型

- 暗渠排水（本暗渠）が無い場合や排水路が浅い場合、これらとモミガラ補助暗渠を一体的に施工することができます。
- 助成率
 - 国55%、県27.5%、市町及び地元17.5%
- 事業主体
 - 県（＝県が工事発注します。）

せんぼくほ場整備通信

【目次】

- ごあいさつ…………… P.1
- ほ場整備事業地区で設立された農業生産法人…………… P.2
- モミガラ補助暗渠を入れてみませんか？…………… P.4
- 編集後記…………… P.4

■第2号 平成24年3月16日
 ■発行／仙北地域振興局農林部
 ■編集／仙北地域ほ場整備推進チーム
 TEL. 0187-63-6117



ごあいさつ

日頃、ほ場整備の推進につきまして、多大な御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。昨年度に続き、「せんぼくほ場整備通信」を皆様へお届けします。今回は、ほ場整備事業地区で設立された農業生産法人の中から3法人を取材し、法人設立までの経緯や、その後の農業・地域の変化を熱く語っていただきました。取材に協力していただいた3法人の皆さんに対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今回の取材・編集を通じて、いずれの法人も地域の「特色」をしっかりと認識して、これからの農業のビジョンを描きながら、地域ならではの実績を上げている事が印象に残りました。一方、「法人化には基盤の整備が不可欠」との言葉もいただき、今後の農業経営における基盤整備の役割の重さに身が引き締まる思いを強くしたところです。



仙北地域振興局管内では、ほ場整備事業に併せた法人設立の動きが数多く予定されておりますので、今回紹介した3法人の取組を参考にさせていただきながら、地域の話し合いを重ねていただければ幸いです。

仙北地域振興局 農林部 農村整備第一課
 課長 佐藤 弘巳

編集後記

「農事組合法人なかむら」を取材した児玉です。今回取材して、秋田の農業を支える農家や法人の方々の熱意に感銘を受けました。ほ場整備を通じて、皆さんのお役に立てるように精一杯力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願ひします。



児玉 寛希

美郷サンファームについて書かせて頂きました。新人の小武海と申します。法人さん達の思いを聞く機会がありませんため、このような経験はとて新鮮で勉強になりました。取材を通して熱意のごもった思いが伝わってきました。その思いを胸にこれから頑張っていきます。ご多忙の中、取材を受けてくださった方々ありがとうございました。



小武海 隆仁

新人の渋谷です。今回の取材では、普段の業務ではあまり見えてこない部分についてもいろいろと学ぶことが出来たことが、私にとって大きな収穫でした。この経験を活かし、農業に携わる皆さんのサポートをしていきたいです。有意義なお話を聞かせて頂きどうもありがとうございました。



渋谷 友彦

仙北の地を最初の勤務地として活躍する、ほ場整備事業担当の若手職員3名は、日夜、現場を飛び回り、地域農業を守るため、仕事に励んでおります。
NN イケメン トリオ
 (農産物振興 行方 農工事 担当三人) でした。



秋田県マスコット スギッチ

ほ場整備事業地区で設立された農業生産法人

～人の輪と地域の和を大切に、社会的責任を誠実に果たしたい!～

【法人の設立まで】

大仙市協和の中村集落では、平成7年から用水路のパイプライン化等により農作業の省略化を図ったのですが、農業の将来や後継者不足を懸念する農家が依然として大半を占めていました。

そこで、集落到還元できる農業を目標に、集落の法人化を目指して営農意向調査や話し合いを進めた結果、集落内農地54haのうち約8割の41haを経営する「農事組合法人なかむら」が、平成18年8月に誕生しました。

【農業の変化】

法人化をきっかけに、米作り一色だった中村集落の農業は激変しました。個人経営では決してできなかったであろう、枝豆、ソラマメ、つぼみ菜、ニンジン等、多岐に渡る品目に取り組む事が可能となり、通年営農が実現しました。

【地域の変化】

「なかむら」の誕生は、集落内経済にも貢献しています。

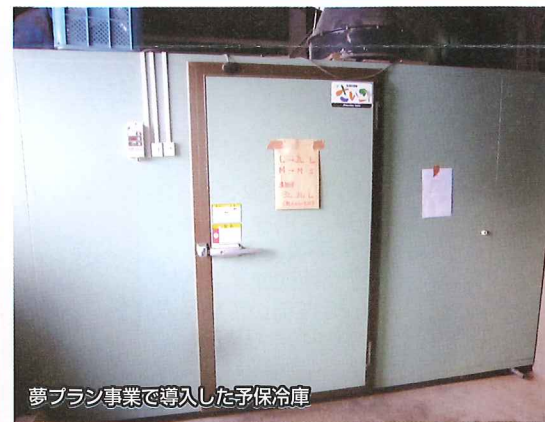
土地改良償還金を法人が負担して組合員の農業支出を無くし、逆に地代(10aあたり2万円)と作業料を支払って組合員への利益還元を努めています。



出荷間近のつぼみ菜



法人の核「ライスセンター」



夢プラン事業で導入した予保冷蔵庫

(農)なかむら (大仙市協和)

【安田代表】

個人の利益が優先される集落営農と異なり、法人は地域農業・社会の振興に努める社会的責任を持つと私は考えます。法人設立の理念に意志が沿う者が組合員となって、目指す方向を共有することが重要ではないでしょうか。



【取材者からのコメント】

法人化は、後継者不足の解消(定年後農業に携わる人が出てきた。)や、ロコミで評判の無人直売所ができるなど集落の活性化にもつながっています。

農作業後の飲み会ではお互いの親交が深められ、集落内の交流という役割も果たしています。

法人化が農業振興だけでなく、地域の輪を繋げている事に感動を覚えました。

(農)ニューファーム千畑 (美郷町土崎)

～地域資源を最大限に活用した農業を!～

【法人の設立まで】

ニューファーム千畑は、平成10年から始まった土崎・小荒川地区のほ場整備事業をきっかけに、北小屋集落が平成15年11月に設立した農事組合法人です。

現状維持では農業政策に左右されて将来の見通しが立たず後継者確保が難しいことや、認定農業者だけでは面積を増やし続けられない限り経営が成り立たないという危機感から、「地域農業を守るためには法人化しかない。」との結論に達し、半年ほどの間に幾度となく話し合いを重ね一気に設立までこぎ着けたそうです。

【農業の変化】

ニューファーム千畑では、地域の資源と集落労働力を有効に使うことに力を入れてきました。

ほ場整備によって豊富な湧水が失われないよう配慮し、セリやホウレンソウの栽培に活用しています。

そして、手間のかかる作業を支えているのは、水稻を全面直播栽培することで確保している地域の労働力です。

セリ栽培農家は以前からありましたが、法人化によって労働力の計画的配分が可能となり、ビニールハウスで出荷時期をずらして利益を上げています。

【地域の変化】

法人化のメリットの一つに、地域雇用の創出があります。常時雇用は5名ですが、年間雇用の拡大に努めています。

また、集落営農では若い人たちが土日に農業を手伝う事が多かったのですが、ニューファーム千畑では、若い人が土日にゆっくり休めるような農業を実現できました。

一方、法人は退職後の受け皿となって新しい人を受け入れ、地域農業を守る担い手としてがんばっています。

【取材者からのコメント】

樽川さんの「他の法人の真似をするのではなく、それぞれの地域に合わせた法人を作っていくべきだ。」という言葉が印象に残っています。

地域の良さを守り、その恩恵を受けるといふ農業の理想である姿を、法人化によって実現しているように感じられました。



水稻は全面直播栽培で!



せりの選別作業



見事なホウレンソウ

～時代が変わる中、新たな風を起こす農家をを目指したい!～

(農)美郷サンファーム (美郷町金沢西根)

【法人の設立まで】

美郷サンファームは、ほ場整備事業による水田の大区画化が進み、大規模経営が可能となって農地の利用集積が広がる中、平成16年4月に設立された農事組合法人で、米にこだわった6次産業化を進めてきました。

【設立してから】

作作品目は、水稻・もち米・米粉用米・酒米・大豆・アスパラガス・メロン・ミニトマトと豊富ですが、中でも注目はもち米です!もち米は、餅スライスや餅スティックに加工されており、秋田県種苗交換会で2度も賞に輝いているブランド品です!今では地元スーパーや道の駅、首都圏でも販売されています。

この生産→加工→販売という流れの中で地域の雇用を生み出すことができました。

【これからは・・・】

現在、平成24年3月20日にグランドオープンする農家レストラン「米(まい)サラダハウス」の开店準備に大忙しです。

奥さんがあきたこまち100%の米粉うどんや米粉パン、娘さんが地元食材を活用したフランスの郷土料理「ガレット」を提供するなど、こだわりメニューが揃っています。



出店準備に忙しい皆さん



米(マイ)サラダハウス



2階に泊まることもできます!

【深沢代表】

農業や地域の担い手としてがんばるには、集落の中で「やる気を見せる」「手を挙げる」ことが不可欠です。

私の場合、これまで交流のあった県外の方たちとのつながりや情報を活かしながら、「有言実行」を旨にここまでやってきました。

「米(マイ)サラダハウス」へ是非一度おいでください。



【取材者からのコメント】

2階は農家民宿となっていて、県外からの研修旅行などを受け入れて、地元のにぎわいの創出につながればと深沢さんは語っていました。

みなさんもこの自然に恵まれた地で憩いの空間を体験してみてください!